
雷狼竜として生きた者の物語

龍竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雷狼竜として生きた者の物語

【Zコード】

Z2886Z

【作者名】

龍竜

【あらすじ】

ある人間が神のミスで殺されて、転生する所謂テンプレって奴です

主人公は雷狼竜として生きる物語です

けつして最強ってわけではないですが、かなり強いです

プロローグ（前書き）

ただでさえ、更新速度落ちてるのにせりやがりましたよ俺

まあやるひつと思つた理由は、モンハンのモンスターになりました系の奴でジンオウガの奴が見えないと思い、やりました。後悔はしてるけどやつちまつたもんは的な感じでやります

プロローグ

「ここはどうだ

目の前は完ぺ健全な真っ白で、なぜここにいるのかすら理解できない歩きだそうと思うけど動かない、腕を動かそうとしても動かない動くのは皿と首だけ

何にもできないと思い、ここに来る前のことを思い出す

俺はたしか、いつも通りの学校で、部活を終え速く帰りたい一心で自転車を飛ばしてた。

そして俺はいつも通らない人気のない道を通っていた
そこが近道であることと人あんまりいないから自転車を飛ばす絶好の場所だった

俺は近道を通り終え、信号を見て道路を渡ろうとした

しかし、渡つてる最中に大きな地震が急に起きた

そう、あまりにも急な地震で明らかに震度5ぐらいのがわかる
周りの車は急停止したが、あんまりにも急すぎてパニックになつた車があつた

その車は俺に向かってきていて、俺は強い地震のせいで動くことができない、しかしなぜかその車はガンガンとスピードを上げている
そして、俺はその車と衝突する直後に意識が飛んだ
そしてこの真っ白で何もできない謎の空間にいた

「だれかいないのか——」

ためしに、大声で呼びかけるが返事はない
どうしたものかと考え始めた時

「なんじや

「！！！」

後ろから声が聞こえたが後ろをむくことはできない

「悪いけどなぜか動けなくてそつち向かないんだけど」

卷之三

しかし、なんでもう「」けなかつたんだ?」

「それは、JURIは許可なしで入った者は身動きもできまいになつ
じゆんじや」

明らかにおかしいだろ、俺は好きでここにきたんじゃないし、なぜここにいるのかすら理解できてない

「それは最もじや、それとなぜここのんじやつたな、それはな
わしの部下のミスでな、お主を誤つてこらへてしまつたんじや」

「なんじや、喧しこ奴じやのう」

「嫌ね？普通に寿命がきて死ぬのはわかるけど間違つて殺されると
てどうこつこと？それとあんただれよ」

「わしはお主らが言つて神様みたいなものじゃ」

「ん？」の流れなんか聞いたこと？が「あつた『』がする

「アーヴィ・所謂テンプレージャ」

「おおメタノ、トングフレなら、なんだ？転生でもやらせてくれんのか
？」

「アーヴィ・
」

「おお、まだでへあるのうとかよべある奴？」

「アーヴィ・や、アーヴィ・じやが、願こなつと世界を言つがここ」

「なら、まづ身体能力MAXで、あらゆる状況化でも生き残るよつ
にしてくれ」

「ほら、なかなか面白いのや、あと一つはなんじや？」

「じゃあ、戦闘能力つていうかセンス？を極限まで」

「ふむ、では世界を言つがいい」

「世界はモンハンの世界」

「む、なるほどだか、」の願いか

「ナハだよ、だつて結構自由に生きれるじやん」

「違いないのう、しかしあは不老とか言つと思つたんじやがのう、面白い奴じや、もしさしの思つた通りだつたらさうかと決めて落とすつもじじやつたが、予想外だつたから、特別に扉にしてみれば後ろに扉があるからそこを抜けるがいい、抜けたら意識が無くななり、生まれると思つからな」

「おお、俺運がいいな、それど、」寧にありがとな

「まあ、ひとびとアラカルスだし、お説びもいこじや、元氣でな

「ああじやあな

そして俺は扉をくぐりぬけた

プロローグ（後書き）

次は設定です

設定（前書き）

設定です

これは物語が進むことに増えます

設定

主人公

人間の時の名前：黒乃龍斗

性格：たまに冷静で、たまに熱血、常時はマイペースな感じ

好きなこと

寝る、食べる、体を動かすこと

読書

嫌いなこと

頭を使うこと

嫌いなもの

正義という言葉

今作の主人公でジンオウガになってしまった人、実力は基本はかなり強い、神様にもらった戦闘センス最強のおかげでジンオウガで最強レベルである

イビルジョーとか、一応古龍にも勝てるが運が左右することの方が多い

唯一のジンオウガには無い物もある、それはなぜか電気のビームをだせることと尻尾を使ったソニックブームをだす

しかし、さすがにアカムやウカムといった竜には勝てないがそこまで差はない

設定（後書き）

では、次回

一話（前書き）

考察時間5分、修正時間2時間

モンハン書きやすいです、あと省略しそぎた

一話

俺の目の前にジンオウガがいる、狩りにきたんじゃない
俺は生まれたがその親がジンオウガだった、そして俺自身もジンオ
ウガだった

あのさ、たしかに身体能力とあらゆる状況化でも生きれるようにし
てもらつていいけどさ
人間じゃないってだれが予想できる?

でもよくよく考えてみれば転生だし、絶対人間に生まれるとは限ら
ないし、そこを今嫌がつてもあれだし

でも、これでいいと思う なぜなら

ジンオウガってかつこいいからだ!

この間5分

閑話休題

そして生まれて10年くらいたつた

え? いきなり飛ばしそぎ?

やめてくれ思い出したくもない、言い忘れたが俺は高校生だったわ

けだからこまさら赤ちゃんプレイとか羞恥心で死ねる

そしてなぜか生まれて5年で、十分以上な力があった

なぜか、アオアシラの半分くらいしかない（四つん這いで、まあ普通な態勢）に力で圧倒した

なぜアオアシラと遭遇したのか、それは単純にはぐれただけ

そのあとお袋？にちゃんと命い、しとめたアオアシラを食べた、最初のころは気分が悪かった

しかし、この自然の中で生きるにはこれに耐えられないといけないから、我慢し続けたが

慣れとは恐ろしい、もう食べる」とに抵抗がなかつた

10年、この十年間は時間を見つければ狩りの練習と力の効率の良い動きの練習だ

スバルタだったこと戦闘センスマックスもあり、今はお袋に圧勝可能なほど成長した

そして生まれて15年がたつた

大きさはまだジンオウガとしては小さいが、ちゃんとした成体である

お袋は普段は厳しかつたが、いた離れるとなると悲しい気分になる

俺はすぐじ、悲しかつたが俺は自由に生きれる」と喜んだ

俺は親から離れて、2年たつた、今はまだきまつた縄張りがない、ほぼ旅も当然の状況だ

この一年間は非常に濃かつた、ある時なぜか砂漠にて、ティガレックスと遭遇したり、ディアブロスにも喧嘩売られたりした。

勿論ティガレックスはちゃんとしとめた、ディアブロスはさすが暴君と呼ばれるだけあって、撃退が精いっぱいだった

そしてところどころにある、オアシスに寄りながら、自然のある所を探した

砂漠で1年間過ごしてしまった、やっと見つけた湿地帯、そこで俺はしばらく体を休めようとした

しかし、ナルガクルガとその亞種に見つかり戦つた、しかし軽く電撃を飛ばしたら一発で田を回してしまった

食べようとして近づくと、腕部分の刃の部分をみた、軽く叩いたりして気がついた、これ骨だ

だからか、と納得した、骨を伝つて電気が脳に直撃したも当然だ、そら一撃だろうな

ひとまず食べれる所を探したが、食べる所が少なすぎるし、食べたけど食べた気がしない

そして俺は、ある森林で落ち着いた。既に体の大きさはジンオウガで銀冠ほどの大きさだ

最初は見て驚いたのが、ここはモンハン3rdのところだ、時期もあって、綺麗な紅葉だ

ひとまずは落ちついた、ここを縄張りにしようと思った

しかし、ここには既に別のジンオウガがいた

俺は、やつと見つけた自分にあつた所だ、力で奪い取ることにした

相手のジンオウガは俺の殺氣を感じて戦闘態勢にはいった

俺は先手必勝とまでに、前足を相手の頭めがけて振り下ろした

相手は驚きながらも避けた、そして明らかに逃げ腰になつてる

なぜか、それは簡単だ、俺が振り下ろした所が少し大きいクレーターができるからと、俺の体の大きさだ

相手の方は、力の差をわかつたのか逃げつていった

俺は同族との戦いを経験してないから、少し期待してたが期待はずれだった

しかし、さすがに無双の狩り人と呼ばれているほどの竜なだけある、引き際を見極めてる

無理して戦い、勝てたとしても自分もただじやすまないからだ
俺は自分の種族を少し誇りに思つた

そして、ハンターがこの縄張りに侵入してくるのは5年後だった

一話（後書き）

感想お待ちしています

2話（前書き）

思考時間20分 修正時間1時間

結構時間を飛ばしまくりますが、なんか戦闘ばかりですが基本的な日常を番外編に入れたいと思います

遅れましたが、この物語は

あれから、一年たつた俺は、あの時よりも強くなり体も大きくなつた、大きさは金冠の一番大きいぐらいだろう

それと、この一年間わかつことがある、俺はなんとかやろうと思えばいつでもすぐに超帶電状態になれることがある

最初はチート？と思つたけど繩張りに侵入していく奴が強かつた、イビルジョーが一ヶ月間隔で侵入してきてる

最悪な場合、二匹か三匹を同時に相手しなければいけない時がある、この時は逃げたかったが

片方必ず小さいのがいたからだ、子供に狩りの仕方を見せようとしてるのだろうか、だが俺を狙つたのが運の刃だった

これだけではわからないと思うから一つ例をだそう、親一匹と、ちび一匹の場合の戦闘だ

最初に電撃を飛ばして少しづつ蓄積させながら中距離戦を展開してた、そしてある程度しごれ始めた時に、飛びかかり

首めがけて全体重を乗せた、右腕を叩きつけた。この一撃でハンマーの気絶の状態になつた

俺は即座に尻尾を回して空中に大ジャンプをしてそこから、左腕を叩きつけた。ついでに爪も突き立てた

そしてこの一撃で親のイビルジョーの首をへし折った。少しピクピクしてすぐに動かなくなつた

そして子供の方は親がやられて逃げて行つたらしく見当たらなかつた
そしてその子供はジャギイの群れに襲われたらしく、ほとんど原形の残つてない死がいがあつた

とまあこんな感じだつた

他の時は複数を相手にするんだが、なぜか仲間割れみたいなことが起きてたからよかつた時と

協力してくる時があつた、まあどつちみち攻撃が味方にあつたたりして仲間割れして味方食つたりしてたし

まあこんな感じが主だつたむしろこれ以外ない

そう、こんな感じで一年間たつたわけだが、何やら異変が起きたらしい

知り合いのジンオウガが逃げてきた、聞いてみると逃げてきたらしが何があったのかはわからないと言つてた

俺は少し興味ができたから行ってみることにした、この縄張りはそいつに任せたが力は下位のジンオウガだから心配だ

本人は死なない程度にがんばるといつてた、死なれると俺の数少ない知り合いがいなくなるから俺はそれを頼んだと言い向かうことになつた

あれから数日がたつた。俺はある山を登つてゐ、そつと口ひいた知り合いの山だ。

近づけば近づくほど雨が強くなる、風も強い、その時俺は何か思い出した

たしか、これアマツじゃね？

俺は今恐ろしいほど逃げなくなつてきた。古龍とはなつたが力はすさまじいとは聞いていた

ゲームだと普通に倒せるけど、ソココアルになると改めてハンターつてすぐえなー

ひとまず帰るか、そう思った直後入ってきた道が崩れた。

明らかに俺の存在に気付いたから逃げださないよつとしてあるみつだ

前に進むしかないようだ

俺はそう渋々前の唯一の道を進む、そして頂上が見えてきた時、すごいフレッシュヤーみたいな物が俺を襲う

倒れそうだったが、なんとか自分に頑張れやればできると某炎の妖精の応援を自分に言い聞かせて向かう

そして頂上にきた時目に入ったのは、明らかに水の生物を意味して
うなヒレとかヒレとか、そして空を泳ぐように飛ぶ竜

アマツマガツチ

リアルで見るとすげえけど最初に思ったことは、「あ……俺死んだ」って思ったよ

しかもあいつ俺を殺す気満々だし、ダメで元々だ。返り討ちだと自分が奮い立たせた

まず、自分より力のあるのが相手の場合はこちらから攻めるより力ウンターを狙う方が効率がいい、相手が自分より質量がある場合はたたみかけるより自分の土台に持ち込めばどうともなる

相手は俺を見下しているはずだ。それとあいつのウォーターカッターニー時に電気を当てたらなんとアマツの方に流れて言つた

たしかに電気とは言え、虫が元なんだけど存外いける物だ

しかしあんまり効果が見られない

俺はこの通常状態だと勝ち目がないと思った。しかし超帶電状態になるには数秒間必ず隙ができる

通常とは違う吸収の仕方だけど、一気になる方法がある、どう書つ原理か、思いつきり吠えると

体の表面に付着してる虫が一気に強くなり、通常の虫より遙かに協力な虫になる

しかも自分でどうと思はない限り解けない、まさにチート

あとついでこの状態になつたら、なぜかソニックブームみたいなものが出来るようになる

しかし、相手は古龍だ。俺が吠える間に攻撃してくるかもしれない隙を少しでも見せれば一気にしぶされると想ひ、どうするか……と思つた

そこで俺は思いついた、また前みたいに少しづつ蓄積をせていけばいいんだと

考え付いたら即行動だ

長くなつたので省略、え？なんでだ？だつて同じこと繰り返してんだよ？

閑話休題

やつと、動きを鈍らせるまで來た。もつ明らかにフランフランのアマツが大きく空を飛び俺から離れようとする

俺はそこで俺に警戒を緩めたのを見逃さず、一気に吠えた

しかし俺が吠えると同時にアマツは逃げていった、遙か遠くに行ってしまった。そうかこれはリアルだった、ゲームだと討伐しかできなかつたし

俺はもうボロボロ、爪は折れ、角は片方折れ、顔に浅いが傷がある
俺は引きずるように繩張りに戻った

一周間かかって繩張りに戻ってきた、そこで見たのは丁度討伐され
た知り合いだった

俺は怒りで殺しに向かおうと思ったが、体が言つことが聞かなかつた
俺はそこを離れて、ある意味一番信用してる友達の所にむかつた
その友達は、ディアブロス、あの時撃退が精いっぱいだった奴だ
場所は砂漠だが、かなり大きい自然のあるオアシスのあるところだ

2話（後書き）

はい、こきなりアマツでした

なぜこきなつアマツなのか、それはアマツは既に着ていたんじやないか

やつ迷ったのです

あとアンケートもどきですが、これからだすモンスター、ティアの名前を決めたいので誰か、案をお願いします

縄張りを追わされて半年たつた。

あれから、俺は自分の回復を優先しながら砂漠を目指した

しかし、俺は運が悪いのか途中にイビルジョーに出会つたり

クルベツコに出会い、リオレウスを呼ばれたり

そしてやっと砂漠に入るとベリオロス亞種に遭遇したりした

最初は砂漠を間違えたか?と思ったがよく考えると砂漠つて結構広いから縄張りの区分があると知った

途中にアイルーの行商隊に出会つたがなんと話が通じたのだ

そこで知つたのは俺の異名と、知り合いのディアブロスの位置だ

因みに俺の異名つか知られてる呼び名は「神狼竜」が主な呼び名で他のジンオウガ達の尊敬の存在らしい

そして他には「巨狼竜」と「天を退けし狼王」だそうだ正直最初のはまあ恥ずかしいが良いとして

一つ目は見た目まんまで、三つめはさらにもう一つの厨二の名前みたいなの(厨二は大好物キリツルメ主)

それと天を退けしつて、あのアマツか間違いではないがどうもしつ

くつこない

しかし、この呼び名よりもびっくりしたのが、あのディアブロスなんか朱色らしい、いやどちかといふと紅に一番近いらしい

それとあの時の傷がまったく治らないのはなんでだろうか、今の傷の状態は角はやっと治ってきていて、爪が全然だ

そして顔の傷はむしろ傷跡が綺麗に残ってる。

モンスター同士の戦闘では、傷が多くて生きていれば歴戦の戦士と言われている。そして尊敬される存在である

なぜ尊敬の存在なのかは、戦闘においてハンターに狩られる方が圧倒的に多いのだ

だから傷が残りながらも生きていればハンターを撃退もしくは返り討ちにし、モンスターの縄張り争いで戦い逃亡か勝ったかだ

逃亡だと、弱虫とか弱者とかあるが傷だらけでいるとする自分より力のある者に勇敢にも立ち向かい負けた。

十分な勇者だ。そしてモンスターで狩り人と称されるジンオウガでは逃げることは恥ずかしいことではない

むしろ誇るべきだ。モンスターの弱肉強食の世界では生きることが最優先事項なのだ

気がつけば、言われた砂漠まで来ていた。

砂漠に入つて早2ヶ月たつた。オアシスを見つけてはそこでたっぷり水を飲み、そこにいたリノプロスを食べながら進んできた

そして繩張りに入った瞬間周りの空気が変わった。

そして徐々に近づいてくる地響き

次の瞬間、目の前に巨大な砂が散りその巨体は現れた

俺とほんと大きさは変わらない（主人公がおかしいだけです。ディアブロスは普通です）

「おう、なんだお前か　どうしたんだ？こんな所に遠かつたんじやないか？」

実は最近になつて氣付いたけど、俺他の竜種と話せるようになつた
「ああ実は色々とあつてなそれと結構疲れたからな、どつか落ち着ける場所に案内してくれないか？」

そう俺が言つと俺の傷に氣付いて

「わかつたいだろ？　こっちだ」

そう言い俺を案内してくれたのは、日陰もあり、オアシスもある最高に位置だ

俺は水を飲み、すこし落ち着いた時

「どうお前どうしたんだ？」

「実はな……」

「俺がここに来た理由をいつと顔をしかめた。おいおい、顔がさうこじつくなつたぞ（もとからです）」

「さうか、それにしても古龍に喧嘩売るとせ無謀も良ことひだな」

「そもそもしないがな、友の話を聞いたら好奇心でな」

「そのままだと好奇心に殺されるだ」

「はは、違いない」

「そいえばお前つて異名ばつかで本当の名前なによな

「ん？ 言つてなかつたか？ 俺はクロノだ」

「クロノか、俺はアゼルトだ。俺達一応友同士なのに名前も知らなかつたんだな」

「それは作者の都合だ」

「メタ」とを囁つな

「まあそれは置いといで、俺の怪我がある程度治るまでここにいていいか？」

「ん~、まあいいだね。ただし餌は自分でなんとかしな

「ああ、わかつてゐるそれとありがと」

「いいひとよ、友の頼みと聞いたらいで見る範囲のことはやるのが
俺だしな」

「俺は良い友をもつたよ

「よせやー、こやせらうが

そして俺はこの砂漠に2年過ぐすことになった

傷は一年でほとんど治ったが、顔の傷は完ぺきには治らなかつた。
多分完全に消えることはないと思つ

俺はこの一年の間にまた大きくなつた。既にトゼルトよりも遙かに
大きくなつた

「トゼルト曰く『お前はこのうち古龍認識されそうだな』だそうだ。
否定できねえ

クロノがハンターに襲われるまであと一年半

三話（後書き）

はい、二話でした。

次は土日のびっничになります

では今前案と感想くれた星鳳さん、本当にあつがいありがとうございました。

では、感想とかをできればよろしくお願ひします。

自分は感想をくれると元気百倍になるので

では次回会いましょう

4話（前書き）

一万PV突破しました！
本当にありがとうございます！

俺は一ヶ月かかつて繩張りに戻ってきた

そこにはドボルベルクだつた、結構でかいはずなんだけど俺の気の
精だった（本人がでかすぎるだけです）

戦闘したが背中のテコボコしたなんか変なのを一撃したらめちゃくちゃ痛がつてた

リアルだと結構グロいです、いまさらか

血が結構出ている、なるほどだから弱点だったのか、おそれいへまつといたら止まるだらう

だが戦闘中にそんなことすればたたみかけられるだろう

卷之三

頭は地面に沈んだ

そしてこいつは見た目からしてあれだがじつはかなり脂肪の塊なのだ
非常に食べがいがあるのでその時

ディガレックスが降りてきた、なぜティガがここにいる

お前は、砂漠とか、雪山が本来の分布だらうが

しかしよく見ると傷だらけだ。弱つてゐし結構小さい、ひとまず話かけてみた

「何者だ、ここになんの用だ」

「ひつ、いえ実は、縄張りを追い出されて、ここのは主は狩られたと聞いたので」

なるほど、まああいつは留守番だつたけどな

「なるほど、ならここにいるがいい」

「本当にですか？」

「本当だとも、俺も一時期ここを離れててな、最近戻ってきたのだよ」

「だとするとあなたが、ここのは主ですか、ん? その顔の傷は

……」

「ん? ああここにはある古龍を撃退した時の傷だ

「……、あなたが神狼竜…………ですか! お会いできて光栄です! ……」

なんだかなー、うつとうじいな

「五月蠅いが、ここに住むのせこがここは村一番近い所だ、狩られなによつて氣をつかる」

そつ、じこめあのモンハンマードの所なのだ、ただ似てるとかじやなくてここののだ

「は、はー。」

良い返事だが、その傷は誰に付けられたのか

「それせうとれの傷はどうしたんだ? 追い出されたのならその傷はわかるが誰?」

「はー、私は雪山のあたりに住んでたんですが、ある変な電気の奴はわかれました」

ギギネブラカ

「ふむ、なるほど、今度行く機会があるなら狩つて置こう」

「あつがとうござります、そいえば名前はなんですか? 自分はグラニア(暴食だったはず)です

「俺はクロノだ、よろしく」

「よろしくお願ひします」

なんかいきなりだが、ティガレックスのグローティンが仲間になった

みればまだ小さい、大きくなれば化けるだろ？

それと、確実にこいつが飛んでいる時を田撃されただろ？、いつかここにハンターが来るかもしれない

ある程度鍛えておかねば

しかし、疑問が残る。ティガレックスは絶対強者と呼ばれた竜だ

その竜がなぜ、逃げ腰なのか、まだ親離れして間もないのか？

いや、違うなこのティガレックスはどうとかおかしい

親離れしても逃げると言ひ選択肢は、普通はない

無謀にも戦い無様にやられるはずだ

しかしそうじやない、なんだろうこの違和感は……

何もなければいいが……

余談だが、このティガレックスは女の子だった

4話（後書き）

はい、遅れました、つか間違えて消してしまって、遅れました
それと新しいオリキャラ ティガレックスのグラートンです
たしかキリストの暴食から取りました、そのまんまのはずですが忘
れました

それとやつと冬休みに入りましたからある程度更新は早くなると思
います

それと、もうすこしハンターがきます

ハンターのリーダー名は自分のキャラです。

他は自分のハンターギルド（笑）の方々です、

いきなりですがG級の方々です、自分の知る限りは最強の方々です

では次回で会いましょう、あと感想とか待つてます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2886z/>

雷狼竜として生きた者の物語

2011年12月21日22時50分発行